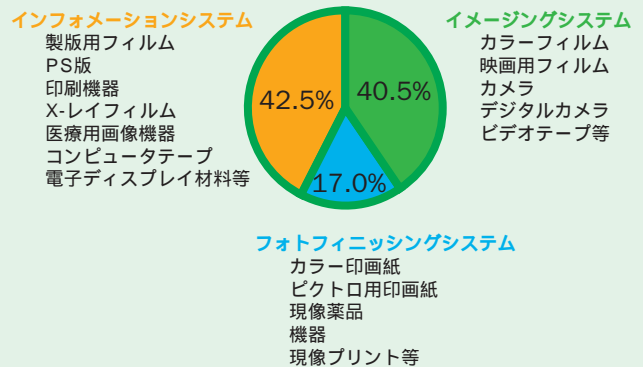


会社名	富士写真フイルム株式会社
設立	1934年1月20日
本社	〒250-0190 神奈川県南足柄市中沼210 Tel: 0465-74-1111(大代表)
東京本社	〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30 Tel: 03-3406-2111(大代表)
主要工場	足柄工場、小田原工場(以上神奈川県) 富士宮工場、吉田南工場(以上静岡県)
資本金	40,363百万円(2001年3月末現在)
従業員数	9,883名(単独) 37,627名(連結)* (2001年3月末現在)
売上高	8,491億円(単独) 14,403億円(連結) (2001年3月期)
当期純利益	631億円(単独) 1,027億円(連結)*
子会社・関連会社	連結子会社 98社* 非連結子会社 57社* 関連会社 44社* (2001年3月末現在)

*2001年3月30日に富士ゼロックスが当社の連結子会社となりましたが、2000年度の対象には含めておりません。

事業内容

売上構成比(2001年3月期 単独)



2000年度の当社の事業概要

eピクチャーなどのデジタル画像分野を中心に新製品、新システム・新サービス・新ソリューションの市場導入等を行い、当期の売上高は8,491億円(前期比3.9%増)となりました。このうち国内における売上高は5,135億円(前期比0.6%増)、輸出は3,356億円(前期比9.4%増、当期の輸出比率39.5%)です。

経常利益は1,108億円(前期比7.5%増)、当期利益は631億円(前期比6.8%増)となりました。

部門別の状況は次のようになります。

イメージングシステム部門

カラーフィルムでは世界で唯一の「第4の感色層」を搭載した「ズームマスター800」シリーズ、「SUPERIA 1600」、リバーサルフィルムでは世界最高の粒状性を持つフジクローム「PROVIA 100F/400F」シリーズ等を発売。

カメラでは、世界最小最軽量のAPS4倍ズーム機「ネクスIA 4100ix Z」を、35mmコンパクトカメラでは高画質撮影が簡単に楽しめる「FUJIFILM KLASSE」を発売。

インスタント写真製品では、「チェキ」シリーズに「instax mini 20」等が加わっています。

デジタルカメラでは、音楽も楽しめる「FinePix40i」や、パルシェデザインの「FinePix6800Z」等を発売し人気を博しました。デジタルカメラとインターネットを結びつけた新システム、FinePix「Picture The Future」を導入し、eピクチャーの楽しみ・活用を拡大しています。

業務用ビデオテープでは、新デジタルフォーマットに対応させる等、製品のラインアップを充実しました。

本部門の売上高は3,440億円(前期比9.5%増)です。

フォトフィニッシングシステム部門

フォトフィニッシング分野では、当社の独自技術である固体レーザー搭載のデジタルミニラボ「フロンティア」シリーズを拡充しました。「フロンティア」を核とした富士フィルムデジタルイメージングサービス(FDiサービス)により、写真フィルム及びデジタルカメラからの高画質プリントの作成、写真フィルム画像のCD化(フジカラーCD)など、インターネットを活用したデジタル写真プリントの普及拡大を進め、eピクチャー時代の先駆的役割を果たしています。

本部門の売上高は1,446億円(前期比14.9%増)です。

インフォメーションシステム部門

印刷製版システム関連製品では、工程のデジタル化にともないCTP(コンピュータ・ツー・プレート)システムに注力しました。

医療診断用製品では、X線画像のデジタル化に対応し、ドライイメージャーや医療用画像ネットワークシステム「SYNAPSE」の市場導入を推進しました。また、マンモグラフィ(乳房撮影)分野において、デジタル撮影を可能にした「FCR 5000MA」を市場導入しました。

情報システム関連製品では、精密薄層塗布技術とファインケミカル技術を集大成した「画彩(かささい)シリーズ」を発売。

産業用材料製品では、液晶モニターの材料部品に用いられる「フジタック」、「ワイドビューフィルム」、「トランサー」が躍進しました。

データメディアでは、当社独自のATOMM技術を核に記憶容量の高密度・大容量化に対応、他社に先駆けてUltrimm用テープを市場導入し、業界をリードする地位を確保しています。

本部門の売上高は3,605億円(前期比4.4%減)です。